

校内研究だより 第2号

南関第三小学校
令和8年7月3日
研究主任：石田

【研究主題】

相手意識をもち、自ら考え、学び合う児童の育成
～書く力を高める国語科学習を通して～

【学校教育目標】

やさしく・しっかり考え・たくましい
「南関三小っ子」の育成

【目指す資質・能力】

協力する力・考える力・やり抜く力

仮説① 書くことにおける基礎基本の定着を図り、単元構想や学習展開の工夫などを行えば、相手意識をもち、自ら考え、学び合う児童の育成ができるだろう。

6月26日（金）第5校時、田川先生が5年道德の研究授業を行いました。

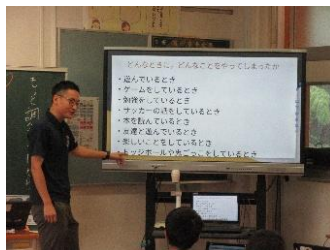
○主題名 心のアクセルとブレーキ（内容項目A（3）節度、節制）

○教材名「もっと調べたかったから」（「生きる力」日本文教出版）

① アンケートの結果を活用（導入）



② アンケートから自分を振り返る。



③ アクセルとブレーキについて考える。



④ 二人はどうするとよかったのかを考える。



⑤ 自分の考えを伝える。



⑥ 自分ができていることを考える。



⑦ 自分ができていることを考える。



⑧ 考えたことについて発表する。



⑨ 振り返りを発表する。



★ 共通実践事項

○国語科スタンダード

○交流学习において、根拠をもとに説明し合う

裏面へ

授業後の感想の紹介です。

子供たちは、事前に教材文を読み、気になるところに線を引いていたので、内容は頭に入っていたと思います。だから、スムーズに学習に入れたのだと思いました。子供たちの反応も良く、いろいろなことをつぶやいていました。先生が、うまく発言を引き出しながらねらいにもっていかれたと思います。(福永先生)
「アクセル」と「ブレーキ」をどのように理解させていくか、難しいなと思いました。子供たちが一生懸命自分の考えをまとめようとしている姿がすばらしかったです。(西 先生)

◎グループ協議で出た意見

良 か っ た 点	・ ICT の効果的な活用（日頃からタブレットを活用して学習している成果が見られた。） ・ 考えて書く時間の確保 ・ アンケートの資格化 ・ 自分と重ねて考えることができた。 ・ 「アクセル」と「ブレーキ」のイメージ ・ 友達に対する子供たちのつぶやき
課 題	・ 題材の内容への理解度 ・ 振り返りは自分のこととつなげて考える。 ・ 「アクセル」と「ブレーキ」への理解 ・ 発表者の態度 ・ 「二人はどうするとよかったのか」に対する、おさえ。 ・ ねらいに沿った、おさえを行う。

授業者 田川先生より

子供たちは、よく頑張っていた。授業後も、「たくさん書いた」「2回も発表した」など、満足げに下校していった。しかし、前半部分のテンポがあまりよくなかったし、児童の言葉をもっと拾えるところがあったかもしれない。議論になっていなかったのではないかと感じた。

研究協議での課題改善に向けて、今後も学んでいきたいと思う。

教育センター 河野 満理指導主事（講師）より

・ ICT の効果的な活用がなされていた。

・ 思考が途切れることなく子供たちは一生懸命に考えていた。

・ 「田川先生が、大変だったけれど、考えることが楽しかったです。」とおっしゃったことがすばらしい。授業者は、楽しく学習することが大切。

道徳の授業では、

- ① 道徳的価値
- ② 自己を見つめる
- ③ 物事を多面的・多角的に考える。
- ④ 自己の生き方についての考えを深める。

この4つを軸に、児童の実態に合わせて授業をつくっていく。

見えない心を育てる。（自分の気持ちを言葉で表現できる。）

見えないものを可視化する。（言語活動の充実）

日常生活と関連付けて考えさせていく。

大切なのは、教えるのではなく考えさせる授業作り。